第31回 熊本大学附属図書館貴重資料展

細川家臣・道家（どうけ）家の幕藩初期と明治維新

期間　平成27年11月1日（日）～3日（火）
10時～17時

会場　熊本大学附属図書館 1階
古文書閲覧室・ラーニングコモンズ

入場無料

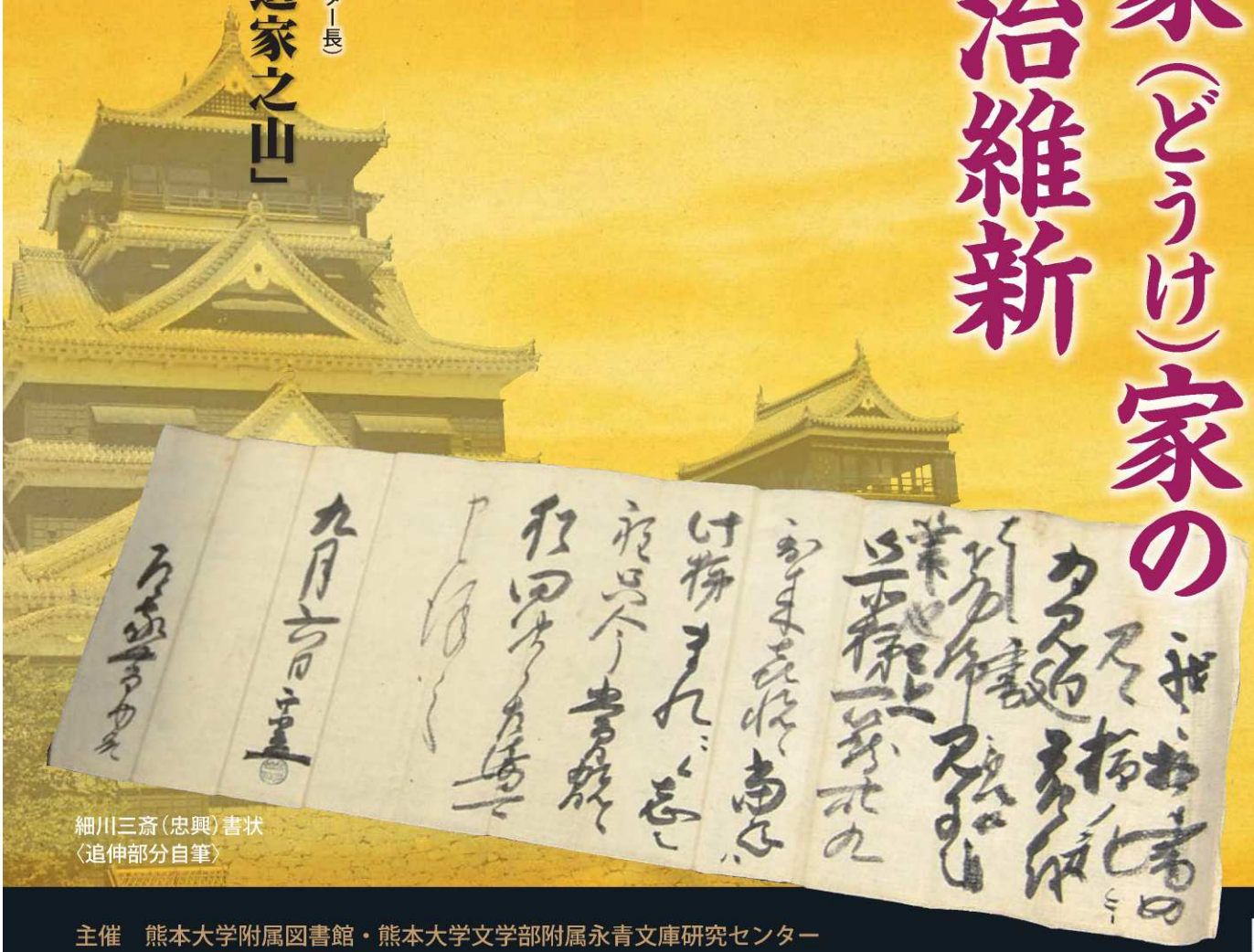
同時開催

公開講演会・第10回永青文庫セミナー

演題Ⅰ「道家家三代と天草・島原一揆」
講師　稲葉継陽（熊本大学文学部教授／文学部附属永青文庫研究センター長）

演題Ⅱ「〈肥後の維新〉の主柱となった道家之山」
講師　三澤　純（熊本大学文学部准教授）

日時　平成27年11月1日（日）14時～15時30分
会場　熊本大学附属図書館 1階 ラーニングコモンズ
※聴講無料〈先着140名まで〉



細川三斎（忠興）書状
〈追伸部分自筆〉

主催　熊本大学附属図書館・熊本大学文学部附属永青文庫研究センター
協力　公益財団法人永青文庫
後援　熊本日日新聞社・NHK熊本放送局・RKK・TKU・KKT・KAB

細川家臣・道家（どうけ）家の幕藩初期と明治維新

附属図書館には、熊本藩主細川家「永青文庫」以外にも旧臣家に伝来した文書群が保管されています。今年、道家一義氏（大阪府）から寄贈された道家家文書（どうけけ）もそのひとつです。

細川忠利の小姓頭となり、天草島原一揆で活躍した道家左近（どうけさこん）、文久期に奉行となって以来熊本と京都や江戸との間を奔走し、幕末維新期の藩政の舵取り役となった道家之山（どうけしざん）らに関する古文書によって、激動期熊本の歴史を御体感ください。

「細川忠利血判起請文」

【道家家文書1－17】（慶長10〔1605〕年7月8日）

道家家初代の帯刀一成は豊臣秀吉の家臣で近世大名となった脇坂氏一族の出身である。帯刀は、慶長7年（1602）、小倉藩主時代の細川忠興に仕え、子息の道家左近右衛門尉も細川家初代熊本藩主・忠利から小姓頭や組頭に任用されるなど、あつい信任を得る。写真は、当時18歳だった細川忠利（内記）が、道家傳三郎（後の左近右衛門尉）に差出した血判起請文。忠利はこの前年に細川家の家督継承者に内定しており、本起請文では、将来傳三郎を取り立てる旨を誓約している。若き忠利の自筆と血判が生々しい。主君が家臣に与えた起請文としても珍しい文書だが、江戸初期に新参した武士たちにとって、主従のパーソナルな関係がいかに重要だったかを物語る文書としても興味深い内容である。

「道家之山宛細川護美書翰」

【道家家文書14－7】（明治３〔1870〕年10月15日）

明治３年７月、熊本藩は、幕末維新期の藩政改革としては全国的にも有名な改革を断行する。その主体は、研究史上、「実学党政権」と呼ばれ、それまでの藩政主流派を一掃して成立した政治集団であった。道家は、その集団の中に、前政権から連続して重臣として加わることになった数少ない人物である。しかしその後しばらくして、彼は病を得て、出仕できなくなってしまう。掲出の史料は、大参事となった細川護美（藩主の弟）から、彼に宛てた書翰で、「禄制・兵制改革に取りかからなければならない大切な時期なので一日も早く出勤して欲しい」と書かれている。私信ならではの生々しさが伝わると同時に、道家之山が藩主兄弟からどれほど信頼されていたのかがよく分かる史料である。

一言説明

道家家文書は、熊本藩細川家の重臣である道家家へ伝来した219点にもおよぶ文書群の総称です。
内容は、細川忠興や忠利の発給文書、道家家の知行関係文書、明治維新後に権大参事に任じられた道家之山関係文書が主になります。
＊道家家は、細川家豊前時代に道家帯刀が忠興に仕官し、その後、幕末まで代々の細川藩主へ仕えました。

アクセス

熊本大学附属図書館

◎交通センター（仮バスターミナル）から
（16番のりば）産交バス・電鉄バス：
楠団地、武蔵ヶ丘、大津行き等（子飼橋経由）
「熊本大学前」下車　徒歩3分

※なるべく公共の交通機関をご利用ください。

問い合わせ
熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40-1
096-342-2212
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/

熊本大学附属図書館公認キャラクター「くまぽん」